

2024年9月11日
国立西洋美術館

新収蔵作品2点公開

女性職業画家の先駆者ラヴィニア・フォンターナ代表作

《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》

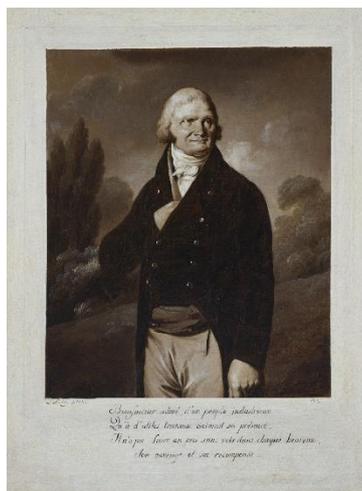
”トロンプ・ルイユ”（だまし絵）の生みの親ルイ＝レオポルド・ボワイーによる肖像画
《トロンプ・ルイユ：クリストフ・フィリップ・オベルカンフの肖像》

国立西洋美術館（東京都台東区上野公園7-7、館長・田中正之）は、中世から20世紀半ばに至る西洋美術の流れを概観するコレクションの形成を目指し、優れた西洋美術作品の収集に努めています。このたび、ラヴィニア・フォンターナ（1552–1614）の絵画《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》とルイ＝レオポルド・ボワイー（1761–1845）の絵画《トロンプ・ルイユ：クリストフ・フィリップ・オベルカンフの肖像》を購入しました。

9月14日（土）より、常設展示室にて公開します。



ラヴィニア・フォンターナ
《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》
1595年？
油彩／カンヴァス
54.5 x 47 cm
P.2024-0004



ルイ＝レオポルド・ボワイー
《トロンプ・ルイユ：クリストフ＝フィリップ・オベルカンフの肖像》
1815年
油彩／カンヴァス
43.5 x 32 cm
P.2024-0001

ラヴィニア・フォンターナは16世紀後半から17世紀初めにかけて、イタリアのボローニャとローマで活動した画家です。美術史上初めて本職の画家として成功を取めた女性であり、18世紀以前に活動した女性画家のなかでは最多の現存作品が知られています。女性芸術家の作品の収集を積極的に進めている当館にとって、この作品は重要な追加となります。

画中の少女と父、そして兄弟姉妹の数人は、極端に毛深いという特異体質の持ち主でした。そのため一家はきわめて有名な存在となり、通常と異なるものを自然の驚異として珍重した各地の宮廷から求められました。当時の宮廷や知識人たちの嗜好と知的関心を物語る作品です。

ボワイーはフランス革命以後19世紀前半を通じ、パリのサロンで人気を博した画家です。彼はパリ

市民の風俗や肖像を描く一方、数々のトロンプ・ルイユ（だまし絵）作品によっても知られます。今回購入した作品はまさしく、版画を模したトロンプ・ルイユによる、当時のブルジョワの肖像画です。当館のフランス近代絵画コレクションは、長らく19世紀初頭の作品に欠けていました。本作品はコレクションの欠落を埋める重要な一步となるとともに、その錯視的效果によって、絵画がもつ魅力を伝えてくれることでしょう。

このほかにも、初期イタリア・ルネサンスの典型的な聖母子像の形式を見せるピアージョ・ダントニオ・トゥッチ（1446–1516）の絵画《聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ》、17世紀初頭のミラノで活躍した女性画家フェーデ・ガリツィア（1578–1630）の絵画《ホロフェルネスの首を持つユディト》を購入しました。展示時期は決まり次第お知らせします。

■ラヴィニア・フォンターナ《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》

作品について

少女が手にする手紙にはその身の上が記されており、そこから彼女の名がアントニエッタ・ゴンザレスであることが分かる。少女の父ペドロ・ゴンザレスは、顔を含む体中に毛が生えるという特異体質ゆえ、少年時代にカナリア諸島からパリに連れてこられ、宮廷人として育てられた。長じて彼はフランス人女性と結婚し、多くの子をもうけたが、うち数人は父の血を受け継いで多毛だった。一家は各地の宮廷に求められ、パリからブリュッセルを経て、最終的にイタリアのパルマに落ち着く。アントニエッタの多毛の兄弟ふたりは後にローマの宮廷で仕え、やはり有名な芸術家によって肖像が描かれた。

少女は保護者の侯爵夫人に連れられて1594年にボローニャへ旅し、そこでウリッセ・アルドロヴァンディという著名な博物学者に面会している。この絵も同じボローニャ訪問時になされた素描をもとにして描かれたのであろう。後に出版されたアルドロヴァンディの著作には、版画による挿絵とともに少女の記述がなされている。

以前からこの絵のヴァージョン作品の存在が知られていたが、昨年この絵の存在が知られ、こちらがオリジナルであると考えられている。表情や衣服の装飾を精緻かつ色鮮やかに描き出す手法は、ラヴィニア・フォンターナならではのものだ。

ラヴィニア・フォンターナ（ボローニャ 1552年—ローマ 1614年）

ボローニャの高名な画家プロスペロ・フォンターナの娘として生まれ、父から絵画の手ほどきを受ける。1580年代には画家として成功を収め、自身の工房を運営して公共空間のために数々の祭壇画を手掛けたほか、肖像画家としても高い評価を得た。1603/04年にローマへ移り、美術アカデミーであるアカデミア・ディ・サン・ルカの会員となった。注文主にはボローニャの学者や貴族階級はもちろん、スペイン国王フェリペ2世や教皇パウルス5世がいた。

■ルイ=レオポルド・ボワイー 《トロンプ・ルイユ：クリストフ=フィリップ・オベルカンフの肖像》

作品について

版画を模したトロンプ・ルイユ（だまし絵）の肖像画。モデルのクリストフ=フィリップ・オベルカンフ（1738-1815）はボワイーの最も重要なパトロンの一で、トワル・ド・ジュイ（人物や田園風景のデザイン柄がほどこされた布）の考案と工場生産により帝政・復古王政下のフランスで成功をおさめた実業家である。画面下部にはモデルの業績を称える献辞が記されている。同構図の複数のヴァリエーションが知られ、そのうち本作は、オベルカンフの死の直後に手掛けられたものと考えられる。

ルイ=レオポルド・ボワイー（ラ・バセ 1761年—パリ 1845年）

革命期から七月王政期のフランスにおいて、おもに中産階級に属するパリ市民の多彩な風俗や肖像を描き、サロンで人気を博した画家、版画家。確かな写実的描写力を備えながら、イメージの遊戯性に富んだ作品を数多く制作した。彼が1800年のサロン出品作につけたタイトルは、フランス語で「トロンプ・ルイユ（trompe-l'œil）」という呼称の起源としても知られる。

国立西洋美術館について

館 名 | 国立西洋美術館

所 在 地 | 〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7

開 館 時 間 | 9:30～17:30（金・土曜日は 20:00 まで）※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 | 月曜日（祝休日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始

※開館時間・休館日の最新情報は国立西洋美術館公式サイトトップページ「お知らせ」をご確認ください。

常設展観覧料（税込） | 一般500円、大学生250円

お 問 合 せ | 050-5541-8600（ハローダイヤル）

国立西洋美術館公式サイト | <https://www.nmwa.go.jp/>

※展示替えのため、9月13日（金）まで全館休館中。

※展示内容は変更になる場合があります。

【報道関係の方からの広報に関するお問合せ】

国立西洋美術館 広報事務局（株式会社ユース・プランニング センター内）

TEL：03-6821-8229 Fax：03-6821-8869 E-mail：nmwa@yocpr.com

〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4F

（受付時間：平日 10:00～18:00 ※土日祝日・年末年始等の対応はしていません。）